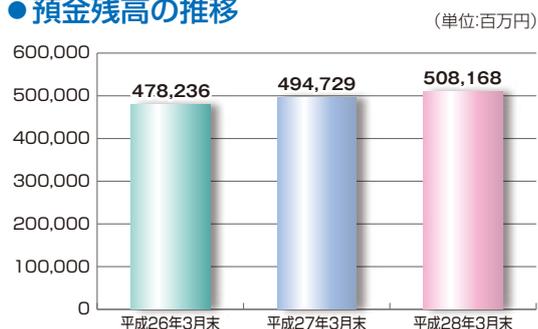


金融機関の総合的な競争はますます厳しくなっておりますが、地域のみなさまのご支援により、預金、融資、収益等の各部門で、次のような業績を挙げることができました。

業績は堅調を維持しております。

■ 預金・貸出金の状況

● 預金残高の推移

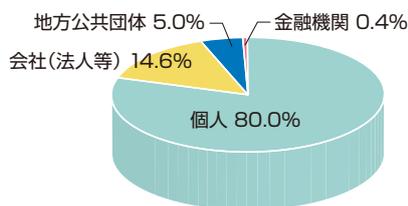


● 貸出金残高の推移



● 預金積金について ▶ 詳細P42

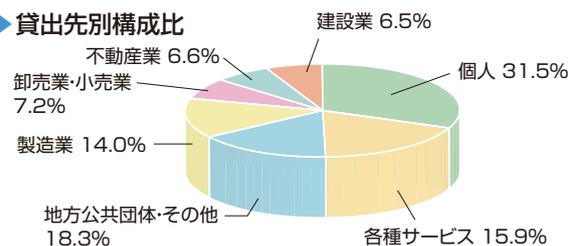
▶ 預金者別構成比



▶ 預金積金残高 5,081億円

● 貸出金について ▶ 詳細P43

▶ 貸出先別構成比



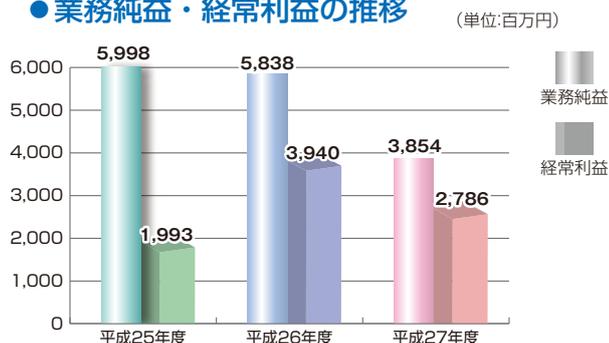
▶ 貸出金残高 2,347億円 ▶ 預貸率(注1) 46.1%

※貸出金は原則として会員の方にご利用いただきます。
(注1) 預金の残高に対する貸出金の残高の割合を預貸率といいます。

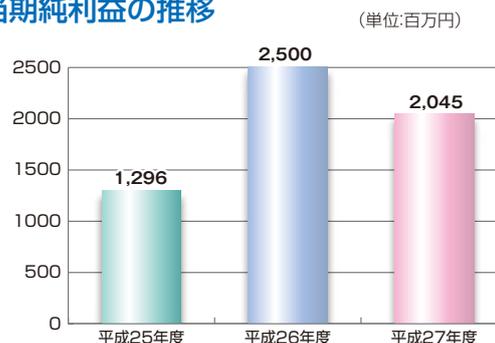
預金の期末残高は、法人預金が前年度比で34億39百万円、個人預金が99億99百万円の増加となったため、総体では134億38百万円増加し、5,081億68百万円となりました。また、貸出金の期末残高は、個人向け貸出金が前年度末比で18億75百万円増加し、事業向け及びその他貸出金については58億22百万円の増加となったため、総体では76億97百万円増加し、2,347億21百万円となりました。

■ 損益の状況

● 業務純益・経常利益の推移



● 当期純利益の推移



前年度と比べて減益となったものの、利益レベルは高い水準を維持しております。

有価証券の含み益は323億円。

■有価証券の状況

●平成28年3月末／保有有価証券の時価情報 (単位:百万円)

		取得原価	時 価	評価差額
保有有価証券	株 式	7,562	9,483	1,920
	債 券	242,164	269,117	26,952
	その他	33,110	36,630	3,519
合 計		282,837	315,230	32,393

お客さまからお預かりした預金のうち、貸出金に回らない資金は主に有価証券にて運用しております。堅実な資金運用と運用資産の健全化に取り組んだ結果、当期末の有価証券の含み益は323億円にのぼりました。これは、信用金庫業界トップクラスの水準です。

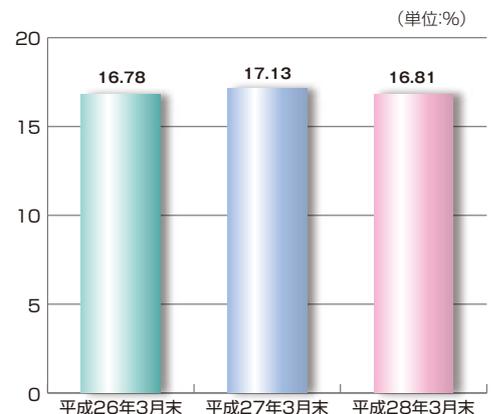
自己資本の額は500億円。

■自己資本比率

●自己資本比率の推移

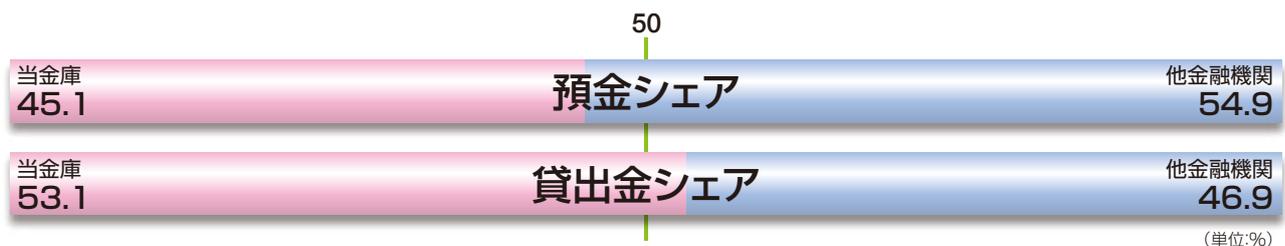
分子である自己資本の額は、当期純利益20億45百万円を計上したことなどから、前期末比4.79%増加し500億90百万円となりました。一方、預金の堅調な増加に伴い総資産額が増加したことに加え、貸出金やリスク・ウェイトが高い有価証券の残高が増加したことなどから、分母であるリスク・アセットは前期末比6.79%の増加となりました。この結果、当期末の自己資本比率は、前期末の17.13%から0.32ポイント低下し16.81%となりました。

資産の増加などにより自己資本比率は低下しましたが、当金庫の自己資本比率は国内基準の4倍以上となっており、強固な体質を維持しております。



地区内シェアはNo.1。

■地区内シェアの状況



地域のみなさまから厚い信頼をいただき、当金庫の主要営業地区である飯田・下伊那の金融機関(ゆうちょ銀行を除く)内における預金残高シェアは45.1%、貸出金残高シェアは53.1%となっております。(みなみ信州農協は2月末、その他の金融機関は3月末の残高による比較) ※他金融機関は、飯田下伊那地区内の銀行、信用組合、農協における預金、貸出金の合計